



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月13日

上場会社名 川辺株式会社

上場取引所 東

コード番号 8123 URL <https://www.kawabe.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡野 将之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理統括本部長 (氏名) 有田 二郎

TEL 03-3352-7110

四半期報告書提出予定日 2023年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	9,007	17.3	88		23		60	
2022年3月期第3四半期	7,682	7.2	253		194		258	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 144百万円 ( %) 2022年3月期第3四半期 255百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	33.02	
2022年3月期第3四半期	141.85	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	12,039	6,220	51.7
2022年3月期	12,299	6,076	49.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 6,220百万円 2022年3月期 6,076百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期				0.00	0.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,880	19.4	110		190		82		44.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	1,861,000 株	2022年3月期	1,861,000 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	35,485 株	2022年3月期	35,365 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	1,825,594 株	2022年3月期3Q	1,825,656 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(収益認識関係)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日~2022年12月31日)における国内経済は、ウクライナ情勢の長期化による不安材料に加え、急激な為替の変動や円安が進行するなど景気への悪影響が懸念される状況が続きました。一方で、新型コロナウイルス感染対策の行動制限緩和などウィズコロナの新たな段階への経済社会活動の移行が進められる中、8月下旬以降からは感染者数が減少傾向に転じた過去2年以上に亘るコロナ禍の景気停滞から少しずつ上向きに推移いたしました。

当社グループの主要販路である百貨店・直営店舗においても外出機運や消費意欲の高まりから入店客数が増加し、一部の店舗ではコロナ禍前の売上高に近づくなど、市況は徐々に回復基調に転じました。また、10月の訪日外国人旅行者への水際対策緩和によりインバウンド需要も回復基調で推移しリベンジ消費に期待を持てる機運に好転しております。

但し、第8波などコロナ感染症の動向や為替変動、物価高などによる消費へのマイナス要因については、引き続き、注視する必要性を認識しております。

このような状況下、当社グループにおいては、当連結会計年度の重点課題として掲げている新規販路の開拓、EC事業の拡大、収益の改善、マーケティング活動・広報活動強化、SDGsの施策を更に推進し、引き続き新型コロナウイルス感染対策の取り組みも継続しながら積極的に営業活動を進めてまいりました。

また事業継続の観点から、在庫の適正化、経費削減、投資の見直し等に取り組み、円安基調の長期化を前提とした為替予約の活用や一部商品価格の見直し等を行い、原価抑制にも努めてまいりました。

その結果、当社グループの第3四半期連結累計期間の業績は、売上高90億7百万円(前年同期比117.3%)、営業損失88百万円(前年同期営業損失2億53百万円)、経常損失23百万円(前年同期経常損失1億94百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失60百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失2億58百万円)となり、前第3四半期連結累計期間の業績から大きく改善をいたしました。

セグメントの業績は、以下の通りであります。

## 身の回り品事業

ハンカチーフにつきましては、行動制限の緩和によりギフト需要が回復基調に推移しました。また、引き続き新規取引先の開拓による新しい売上を構築できたことや、SNSに端を発し百貨店店頭や自社ECで大きな売上を構築したラルフローレンエコバッグなどのヒットアイテムの牽引や、訪日外国人観光客需要による一部のブランド商品の大幅な売上伸長等から売上は前年比110.4%となりました。

スカーフ・マフラーにつきましては、秋物市場の初動に関しましてはシルクスカーフや薄手ストール、無染色カシミアシリーズや、敬老の日向け商品など新作の市場動向が順調に推移したものの、繁忙期である11月・12月の温暖化により防寒商材はクリスマス前後の期間には盛り上がりを見せたものの、シーズンを通しては厳しい市場となりました。

その結果スカーフ・マフラーの売上は前年比109.3%となりました。

また、新たな取り組みとして始めたカシミア回収事業は百貨店店頭を中心に大きな反響をいただきリサイクル事業として一定の成果を得ることができました。

タオル・雑貨につきましては、GMSの店頭、EC事業、TV通販での売上が順調に推移したことや、百貨店内にて積極的におこなったハワイアンキルト柄をモチーフとした商材のイベントが功を奏したこと、また、当社が幹事として自主運営を行う百貨店雑貨売場における売上が牽引した結果、前年比142.1%となりました。

この結果、身の回り品事業での売上は、前年比115.1%となり在庫に関しましても前年同月対比で大幅減となりました。

#### フレグランス事業

フレグランス事業の同連結累計期間におきましても、身の回り品事業と同様に行動制限緩和により首都圏を中心とした百貨店や直営店舗の来客数増や沖縄地区の観光客増に伴い店頭は順調に回復基調で推移いたしました。

また、引き続きスキンケア商材が小売店店頭及びEC販路で好調に伸長し、主力商材である香水に関しても百貨店での大型イベントによる効果や年末商戦に於けるギフト需要の伸び等が牽引した結果、フレグランス事業での売上は前年比130.2%となりました。

全事業といたしましては、前年同期（2021年4月1日～2021年12月31日）と比べ、売上高の大幅な増加や在庫削減が実行できたことにより、売上総利益が増加し、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益は増益となり、大幅な利益改善となりました。

当第3四半期連結会計期間（2022年10月1日～2022年12月31日）につきましては、営業利益1億31百万円、経常利益1億58百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億38百万円の黒字となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期における「資産合計」は、前連結会計年度末の122億99百万円から120億39百万円となりました。これは主として、現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金の増加、商品及び製品の減少によるものであります。

「負債合計」は、前連結会計年度末に比べ4億3百万円減少し、58億19百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金の増加、短期借入金の減少、長期借入金の増加によるものであります。

また、「純資産合計」は前連結会計年度末に比べ1億43百万円増加し、62億20百万円となりました。

この結果、当第3四半期における総資産は、前連結会計年度末の122億99百万円から120億39百万円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、行動制限が解除されたことにより、主力販路である百貨店等を中心に集客が戻りつつあり、また、インバウンドが追い風となることや、ハレの日を含めた各種イベント行事の再開により、ギフト需要の復調も期待できる状況となりました。

特にハンカチアイテムに関しては、有名キャラクターブランドの導入やインバウンドに効果的なブランドなどのラインナップが揃い、加えて創業100周年の記念企画や感謝催事などを当第4四半期連結会計期間（2023年1月1日～2023年3月31日）において、積極的に展開を行う予定です。

以上のことから、2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日発表の「2022年3月期決算短信」の業績予想から変更しておりません。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,308,343	1,042,266
受取手形及び売掛金	2,052,007	2,150,549
商品及び製品	3,397,324	3,082,703
仕掛品	44,492	82,452
原材料及び貯蔵品	165,291	159,832
その他	223,539	266,933
貸倒引当金	△1,765	△1,931
流動資産合計	7,189,232	6,782,806
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	793,372	757,748
工具、器具及び備品（純額）	61,592	53,163
土地	1,099,724	1,099,724
その他（純額）	92,834	82,630
有形固定資産合計	2,047,524	1,993,267
無形固定資産	226,845	229,203
投資その他の資産		
投資有価証券	606,040	882,188
投資不動産（純額）	1,596,147	1,574,782
その他	634,010	577,667
投資その他の資産合計	2,836,199	3,034,638
固定資産合計	5,110,569	5,257,109
資産合計	12,299,801	12,039,916

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,665,968	1,673,682
短期借入金	3,011,356	2,347,428
未払法人税等	50,404	33,123
賞与引当金	12,561	-
その他	514,731	594,673
流動負債合計	5,255,021	4,648,906
固定負債		
長期借入金	335,189	551,113
退職給付に係る負債	434,716	447,046
資産除去債務	56,191	50,751
その他	142,571	122,007
固定負債合計	968,668	1,170,918
負債合計	6,223,690	5,819,825
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,720,500	1,720,500
資本剰余金	1,770,567	1,770,567
利益剰余金	2,689,531	2,629,247
自己株式	△54,598	△54,709
株主資本合計	6,126,000	6,065,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△60,617	138,503
繰延ヘッジ損益	△563	△950
為替換算調整勘定	25,690	37,419
退職給付に係る調整累計額	△14,399	△20,487
その他の包括利益累計額合計	△49,889	154,484
純資産合計	6,076,111	6,220,090
負債純資産合計	12,299,801	12,039,916

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	7,682,615	9,007,885
売上原価	4,889,997	5,849,502
売上総利益	2,792,618	3,158,382
販売費及び一般管理費	3,046,445	3,246,884
営業損失(△)	△253,826	△88,501
営業外収益		
受取利息	56	35
受取配当金	7,735	8,543
投資不動産賃貸料	93,395	101,932
その他	46,036	50,069
営業外収益合計	147,224	160,580
営業外費用		
支払利息	20,645	19,972
不動産賃貸費用	51,732	60,737
持分法による投資損失	13,585	12,679
その他	2,042	1,936
営業外費用合計	88,006	95,326
経常損失(△)	△194,609	△23,247
特別利益		
固定資産売却益	3	-
特別利益合計	3	-
特別損失		
固定資産除売却損	174	-
減損損失	20,244	-
店舗閉鎖損失	1,740	5,156
特別損失合計	22,159	5,156
税金等調整前四半期純損失(△)	△216,765	△28,404
法人税等	42,205	31,879
四半期純損失(△)	△258,971	△60,283
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△258,971	△60,283



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純損失(△)	△258,971	△60,283
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,169	199,120
繰延ヘッジ損益	△4,643	△386
持分法適用会社に対する持分相当額	7,389	11,728
退職給付に係る調整額	△8,551	△6,088
その他の包括利益合計	3,365	204,374
四半期包括利益	△255,605	144,091
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△255,605	144,091
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	身の回り品事業	フレグランス事業	計
百貨店	3,166,365	354,268	3,520,633
量販店	1,100,304	11,375	1,111,680
専門店、小売店その他	2,329,690	720,610	3,050,301
顧客との契約から生じる収益	6,596,360	1,086,254	7,682,615
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	6,596,360	1,086,254	7,682,615

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	身の回り品事業	フレグランス事業	計
百貨店	3,710,078	439,719	4,149,798
量販店	1,247,295	14,495	1,261,791
専門店、小売店その他	2,636,645	959,650	3,596,296
顧客との契約から生じる収益	7,594,020	1,413,865	9,007,885
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	7,594,020	1,413,865	9,007,885

(重要な後発事象)

該当事項はありません。